ツワブキ　・・・

木枯し一号が吹き，北国から初霜や初氷の便りを聞く頃になると，通りすがりの庭や公園の花壇にツワブキの鮮やかな黄色い花が目立つようになります。当団地でも集会所玄関付近に，１０月下旬頃より黄色い菊花状のツワブキが花を咲かせています。

ツワブキはキク科ツワブキ属の常緑多年草で，太い根茎から長い柄のあるフキによく似た葉を束ねるようにして伸ばします。葉の出始めは灰褐色の綿毛におおわれていますが，葉柄が伸びるにしたがって綿毛は消え，つややかな光沢のある葉になります。厚みのある葉はキク科のものとは思えないほどですが，子どもの拳ほどの頭花を見れば典型的なキク科の花と疑う者はいません。

肉厚の葉はフキに似ていて，上面に艶があるので，艶蕗（つやふき）がなまってツワブキになったと言われています。確かに十分に納得できる説明ですが，ではなぜ漢字では「石蕗」と表記するのか不思議です。

このツワブキ，昔から民間薬としてよく利用されており，腫れ物ができるとツワブキの葉を炙って貼ったりしたものです。軽い火傷や切り傷，打撲，湿疹などにも効果があるようです。また，乾燥した根茎は煎じて下痢や食あたりの治療にも利用しました。

食用にも利用され，キャラブキとは本来このツワブキの若い茎で作るものだそうですが，私のイメージはどうも苦味を伴いそうで遠慮したい気分です。

ところで，山口県津和野町はツワブキが多かったためにつけられたとの説がありますが，本当でしょうか。